

日本共産党東京都議会議員 (厚生委員)

藤田りょうこの都政報告



連絡先 藤田りょうこ事務所 大田区西蒲田6-34-7
☎ 3736-1494 fax 3735-4522



発行 日本共産党東京都議団 新宿区西新宿2-8-1 ☎ 5320-7270

いのちを守る 都政を!

第三回定例会 初質問 本会議で

9月19日から10月5日まで、東京都議会第3回定例会が行われました。9月27日には藤田りょうこ都議が初の本会議一般質問に立ち、**中小業者の命を守る対策、訪問看護師の増員、荏原病院の休止病棟の再開**など、13分間にわたる質問を行い、小池都知事・担当局長が答弁をしました。



一般質問に立つ藤田議員(9月27日)

小規模事業者の健康を守る支援を!

「仕事を断ると受注が来なくなる」「病気がわかってでも治す時間もお金もない」。看護師として大田病院で働いていた時、町工場の方からはそんな声をたびたび聞いていました。

治療費も時間もない

従業員が5人未満の業者が多く加入する、東商連の共済会による調査では、がんによる死亡が4割、診断から1日以内に亡くなる方が19%にも及ぶという驚くべき実態がわ

かりました(2017年度)。小規模事業者では健康を後回しにしていることも伺え、まさに「いのちを削って働く」状況でした。

受診率向上を

質問では、がん検診を受けやすくするよう支援を求め、都も「平日夜間や土日のがん検診実施など新たに支援するなど、受診率向上に努めていく」と答弁しました。引き続き、国保では実施されていらない傷病手当金の給付

訪問看護師の増員を!

高齢者が増える中、在宅療養の需要は増え続けていますが、そのために重要な訪問看護は人材確保が課題となっています。「訪問看護は在宅での療養生活を支える重要なサービスである」と、知事も答

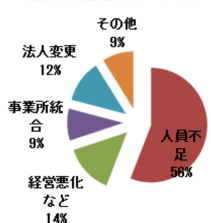
へんしました。看護師確保の課題は多くありますが、奨学金制度の

拡充、新入育成支援、事務職員の雇用支援の拡充などを求め、安心して暮らせる社会実現に向け全力を尽くします!



奨学金制度の

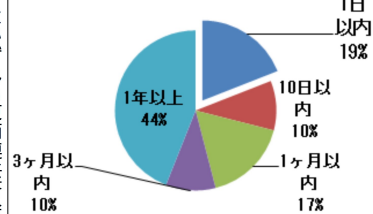
2017年度廃止した訪問看護事業所



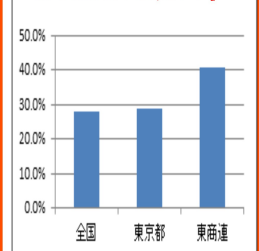
2017年度東京都訪問看護推進部会資料より

診断から死亡までの期間 調査人数133人

右グラフはいずれも東商連共済会2017年度資料より



がんによる死亡率



など、病気になっても治療が受けられる環境整備に向け、全力で頑張ります。

第三回
定例会
一般質問

地元大田区関連の 質問を行いました

水害 対策

上池台三丁目の 水害対策を早急に

大田区上池台3丁目は、1時間に50ミリ以上の雨が降ると、毎回のように入上浸水が発生しています。浸水被害を受ける住民の不安を払拭するために、できるだけ早くに浸水対策を完成することが必要であると指摘し、東京都に対応を求めました。都は、「2016

年度末に事業を着手しており、年度末までに一部完成した下水道管を暫定的に稼働させるなどとして、効果を発揮していく」と答弁しました。引き続き、安心してすみ続けられるために、頑張ります！



上池台の水害対策の前進を喜ぶ住民のみなさんと共に。左端、藤田都議、右端、福井区議 (10月17日)



上池台三丁目雨水調整池視察。右から3人目、藤田都議 (10月26日)

荏原病院の 休止病棟の再開を

荏原 病院

2006年に東京都立から東京都保健医療公社に移管して以降、常に閉鎖している病棟があります。この原因は「看護師不足」であると答弁しましたが、公社化を進めた東京都にも大きな責任があります。地域で必要な医療が荏原病院で受けられるよう、保健医療公社と東京都に対応を求めてまいります。



障害者 政策

障害者施設の 環境整備を



東京都北療育医療センター視察 (9月12日)

医療の高度化とともに、重度心身障害児(者)に加え、医療的ケアの必要な方が増えています。しかし、高校卒業後に通える場所は少なく、大田区にある北療育医療センター・城南分園は大切な施設です。身近な地域に通所できる施設を整備することを求め、都も整備促進を図ると答弁しました。

略歴



●1974年8月11日生。東京都大田区出身。●1996年東京都立医療技術短期大学看護学科卒。20年間、看護師として従事。●2017年東京都議会議員選挙に初当選。都議会厚生委員●池上在住。

都政へのご意見、
ご要望をお寄せください